

平成26年度 第2回芦屋市地域福祉推進協議会会議録

日 時	平成27年3月20日(金) 13時30分～15時30分
会 場	保健福祉センター3階会議室1
出席者	<p>出席 会長 牧里 每治, 副会長 波多野 正和 有野 和枝, 加納 多恵子, 岡本 直子, 岩尾 實, 長田 貴 松矢 欣哲, 堺 孰, 仁木 義尚, 森川 太一郎, 小関 萬里 福島 貴美, 柿原 浩幸, 寺本 慎児</p> <p>欠席 長澤 豊, 山下 訓, 仁科 睦美, 小牧 直文, 伊田 義信</p> <p>事務局 地域福祉課 長岡 良徳, 細井 洋海, 竹迫 留利子, 吉川 里香, 村岡 裕樹</p> <p>芦屋市社会福祉協議会 磯森 健二, 園田 伊都子, 宮平 太 三芳 学, 木村 千絵</p> <p>所管課 障害福祉課 川口 弥良 高齢福祉課 高橋 和稔 介護保険課 奥村 享央 こども課 西岡 周二 精道高齢者生活支援センター 針山 大輔</p> <p style="text-align: right;">(敬称略)</p>
事務局	福祉部地域福祉課
会議の公表	■ 公開
傍聴者数	3人

1 会議次第

(1) 会長あいさつ

(2) 議題

- ① 芦屋市地域発信型ネットワークにおける各会議体の進捗状況について
 - ・小地域福祉ブロック会議・中学校区福祉ネットワーク会議の報告について
 - ・地域ケアシステム検討委員会について
 - ・各附属機関等の報告について
- ② その他

2 提出資料

資料1 平成26年度小地域福祉ブロック会議開催一覧

資料2 平成26年度小地域福祉ブロック会議まとめ

資料3 平成26年度 第1回中学校区福祉ネットワーク会議 開催一覧

資料4 地域発信型ネットワーク中学校区での取り組み

資料5 平成26年度 地域ケアシステム検討委員会 開催報告

資料6 地域発信型ネットワークにおける芦屋市附属機関等の位置づけと意義について

当日資料

- ①平成26年度第二回小地域福祉ブロック会議開催一覧
- ②平成26年度小地域ブロック会議まとめ 山手中学校, 精道中学校, 潮見中学校,
- ③ネットワーク会議の開催一覧

- ④芦屋市地域発信型ネットワーク図
- ⑤第二回次第
- ⑥設置要綱
- ⑦地域発信型ネットワークにおける芦屋市附属機関の位置づけと意味について
- ⑧地域ケアシステムからの開催報告 当日資料1
- ⑨地域発信型ネットワーク中学校区での取り組み 当日資料2
- ⑩認知症サポート要請講座
- ⑪伊勢町だより
- ⑫第4回市民が作る福祉プロジェクト展のチラシ
- ⑬生活困窮者自立支援法に関するチラシ
- ⑭いのちを守る芦屋 リーフレット

3 審議経過

牧里会長：「地域福祉」というのは地域社会を基盤にそれぞれの社会資本のサービスとか事業とかあるいはここに集まっていたりしている各種団体の方々の協働の下で進められるひとつのテイストと考えていただけたらいいかと思うのですが、それを基礎に地域社会、コミュニティと言ったりもしますけれども、それがだんだん弱くなってきているというのは誰しもが認められるところでございます。自治体にしても町内会にしても参加の人が少ない、民生委員にしましても次のなり手がいないなど、若い世代の人たちが、システムの中に入っただけことが難しい時代になってきました。こう考えますと、それまでの私たちの社会の見方をもう少し後方から見直す必要があるのではないかなと思います。じゃあ今までのやり方ってというのはどういう基盤で成り立っていたのかを簡単に言いますと人々は移動することがなかった。つまりそこで生まれて、そこで育って、そこで仕事して、そこで結婚して、子どもができて、おじいちゃんおばあちゃんになって、地域の中のお墓に行くわけですね。

それと比較して今考えますと、みなさんどうでしょうか、ずっと生まれて育って、そこで仕事をして結婚して、ずっとここにいますって何人いらっしゃるでしょうか。そういう人は天然記念物に等しいと思います。表彰されてもいいくらいですよ。たいてい10年に一回ぐらいは住む場所、働く場所、育つ場所変わっていったるわけですよ。そういう世の中なんだということを前提にこれに合うような地域社会ってなんだろってことを考えなきゃいけない。

それと地縁だとかいいですけど、むしろ地縁という関係を外して、人と人とがとつながったことを一期一会といいますけれども、出会ったことを大切にたかだか10年間しか芦屋にいなかったとしても、芦屋の市民として迎え入れましょう。あるいはその方々が芦屋でみんなに10年間よくしていただいたことが他の市へ行ったときに、芦屋って良いとこでしたよねって言うてくれるような人になると考えると、ほかであれば芦屋っていうのは人々がやってき、それから出ていく、とても良い場所だということを我々は作っていくことになると思います。そういう思いで芦屋の「地域福祉」を高めていきたいと思っておりますので、皆様積極的にご発言いただけたらと思っております。簡単ですけどもあいさつに代えさせていただきます。

仁木委員：まず初めに質問ですが、協議事項となっておりますが、報告事項のことですか。

牧里会長：そういうことですね。

仁木委員：ということはこのレジュメは間違っています。ここでは協議をして、決定してそれを審査会にあげていくということなので、これから報告されるのは誰か、地域ケアシステムの方で地域の課題についてという項目があって、その課題に関して、声を上げるべき問題について必要な報告と課題とすべき対応について説明を受けたいと思います。報告事項については用紙いただいておりますので、説明していただく必要はありません。ここは協議の場ですので、協議ができる

ようにしていただきたいと思います。

牧里会長：提案ができましたけれどもいかががいたしましょうか、一つは協議事項と書いてあるのを報告事項に訂正するという考え方が一つあって、ご提案のとおり、もう報告はなしでもいけるよという提案なのですがいかががいたしましょう。特にご提案はありませんか。

堺委員：協議事項ですけれども説明が必要であれば、アウトラインだけでも説明していただいて、それから協議上、課題があるのであれば報告していただいてもいいのではないのでしょうか。

牧里会長：では、最初に小地域福祉ブロック会議、中学校区福祉ネットワーク会議の報告についてとありますが、このことについて事務局から課題になっている点を中心に報告していただきましょうか。

①小地域福祉ブロック会議について
社会福祉協議会 三芳より説明

②中学校区福祉ネットワーク会議の報告について
社会福祉協議会 宮平より説明

岩尾委員：ご報告ありました、小地域福祉ブロック会議の資料の二枚目の下から4行目です。2月20日に小地域福祉ブロック会議の、三条地区、8町9自治会や他団体等で預かりそろいまして、各層でここにあります身近な場所で日陰に入れる場や機会を設け、相互の交流を通じて、顔の見える環境を作りたいというこのテーマに沿いまして、各町でどういうことができるかと、そういう問いかけがありました。これは三条町の福祉の効果ですね。5月にガレッジセールをしないと、しかも三条公園でということ立ち上がりまして、内部に相談をして、私も少し相談に預かりましたが、この報告がありましたでしょうか。

事務局（宮平）：まだ、いただいておりません。

岩尾委員：でしたら少し説明させていただきます。そのガレッジセールですけれども人を集めようとして考えたそうですけれどもちょっと内容にそぐわないということで、この5月中止とさせていただくことになりました。家庭の不用品を持ち寄ってそこに人が集まるという理由でバザーをやったのですけれども家庭であるものを手工業または趣味のもの、自分で作ったものを売るという、そういう形という内容ということで、目的にガレッジセールなるものはそぐわないということで中止ということになりました。また、相談かけまして、いずれ報告があるかと思います。

牧里会長：はい、ありがとうございます。では、どんな取り組みをしているかというような課題を見られましたが、ここからみなさんの協議の場にしたいと思います。今までの報告を含めて、それ以外の問題があるとあるいは今後こんなことを考えたほうが良いというご提案を含めてみなさんからご意見をいただけたらと思います。

堺委員：課題とか浮き彫りにした報告などやっていることをきちんと報告していなかったわけですけれどもこの中でひとつ、私が思うにはこの牧里先生を委員長にして会議が何回目になりますかね。1年に1回か2回かありますから、忘れたころに開かれるというというものもありますので忘れることはいいことじゃないかもしれません。ひとつは、昨日こういうことがあったなどマンションの住民のニーズがなかなか見えていないということといますのは芦屋だけの問題ではなくて全国でそんな問題があると思いますが、そんな中で共同募金のお金の問題、もなかなかマンションの管理組合があったりして行き届けにくいというのはあったため小学校区と中学校区を分ける必要があるのだろうかということになっています。したがって、一歩

突っ込んで、マンションの孤立化、個別化したような団体やマンションによっては非常に取り組みをしているところもある。したがってそういうところとそうではないところをどうやってつないでいくかという具体的な課題を解決することになるのではないかと思います。いつまでもこんな会議をしていてもマンション側の管理組合の管理者は忙しくて出席できないということもあれば、積極的に出席してきて、少しずつ広がっていくということもあるかもしれませんが、良い事例があればいいですし、小地域、中学校区を分ける必要がないのではないかと、小学校区一本でいって、中身については課題別に取り組んでいって解決するほうがいいと思います。少し長くなりましたが以上です。

牧里会長：会議の進め方というかあり方についての提案ということですね。いろいろ関与しているが問題解決に至らない。この会議は何だということ。それから小学校区と中学校区を分けているが、あまり意味はないのではないかと、逆に意味があるというご意見をいただきたいと、その二つあると思いますけども、とりあえず、どちらから行きましょうか。今まで推進協議会で出た会議とやってきているけどもうひとつ見えないのではないかと、これはですね、難しいところではあるのですけれども、地域の問題でいろいろ起きていた問題を明確化しようという考え方もあって、とはいうものの会議ばかりで、これといった取り組みも見えてこないし、疲れてきた。しかも中学校と小学校を分けて会議ばかりしている、むしろ違うやり方を考えないとならない。

今、一般的にやらなければならないのは、例えば、橋が壊れたから橋直しましょうとか道路について補助金が少ない。今そんなことをいっても、やるんだったら自分一人でやりなさいよという、そういう時代の中で、今までのやり方で問題が明確化するかというとしません。

だから疲れてしまうんです。それとどんな風にしたら人は集まるのかどうということをすれば地域に人が入るのか細かく考えていかないと、まとめてやるのはもう無理です。若い人に入ってもらおうとか、朝やるとか時間を区切ってやるとかということを考えていかなければならない。

あるいは、例えば人が集まるとはお祭りをすると人は集まりやすい、商工会がユーチューブでPRするとか、今の時代にあったツールを使ってやるとか、わくわくするようなことをやらないと人はやってこない、そういうことなんですね。となるとどうことをしたらいいかをみなさん考えなければならぬ、これが大事なんです。人が一番集まるのは、プレゼントをあげる、お金を上げるってことじゃないですよ。何か今までのやり方と違ったやり方を通じて何がもの足りないのかを議論していくことが必要です。例えば民家を借りて家開きみたいなそういうことをやって自分のうちで話をしませんかということであったり、一人暮らしの人が自ら仲間を作って何かしたり、あるいは畑の決まったところにみんなで耕して、例えば保育園に寄附をしたり施設に提供したり、こういうことをしているんですね。

さっきのがレッジセールを中心にしたということも、良いことなんです。がレッジセールの儲かったうちの10%を障がい者の施設に寄附しますなど、こうやればできる。というわけだから、いろいろな意見を出し合うために集まっているんです。

加納委員：この地区は、商店街を巻き込んで、たくさんのイベントをやっているんです。

やっているのもわざわざ三条町だけでなくでもいいでしょ。これは福祉とかいろいろな活動が積み重なって今の状態がありますので、主体になるのは地域住民です。私たちがやろうとしたことを、他の地域も、そのように地域が主体となって参加して楽しかったというような風になって欲しいと思っています。

牧里会長：今ガレージセールとかヤードセールとか諸外国の話をしてもしょうがないですが、自分たちのいらぬものを出して、家具からお人形さんとかおもちゃとかそういうことをやるんですね。だから例えば50セントで買うとか、それを集めて低所得の人が買いに来るように、そんなショップもあります。さらに、オークションもあります。インターネットで調べればすぐ出てきますが、普通の女性の人たちでスーツを無料で寄附してもらい、それを例えばホームレスの人とかに寄附し、それを着て会社の面接とか、無料で服を着させてくれると、行ってみ

ようか、今まで仕事に行ってみただけ全部失敗したし、でもそれをきっかけに面接の仕方とか履歴書の書き方とか教えて、20年くらい前ですけどね。それは評価されていますね。地域でも問題を明らかにしてその動きをつかむということが大事だと思いますけれど、実際には小地域の福祉ブロック会議とか中学校区の会議とか、会議ばかりではないかという不満につながっていますが、仁木さんどうでしょうか。

仁木委員：おそらくそれぞれのブロックでやっているし、三条町みたい成功していることもあると思うんですけども、その情報が横長の中であまり広がっていないのではないかと、せっかくそこで考えている方もおられるのに行ったところ行ったところであそこではこういうことをしていましたよという報告がなされていないのではないですか。で、それぞれの地域で出てきた課題がそこで解決してやってらっしゃるみたいですけどもやっぱりいろんな情報がないと今おっしゃられたようなことはできません。ここはこういうことで成功しているということブロック会議の中で活動している方々が報告されればその会議が活性化していくと思うんですね。で、芦屋自体は小さな町なのだから、国が作った実際の制度をそのままやってあそこはよくやっているからと評価するような施策は嫌なんです。昨日、一昨日かな、虐待の会議がありまして、名前は忘れたのですが学校にはコーディネーターがいないんです。これは県から派遣されたと聞いていますが、県の学校しか行かず、市には来てくれない。その校長先生にその先はソーシャルワークですね。何度も言っているのだけれども却下される。このソーシャルワーカーのいいところは子どもと友達になる。口を開かない子どもの心を開くということです。実はその虐待されている子どももお母さんも心を開いてもらうことが一番先決ですのでどうやって心を開いてもらうか、ものすごく難しいですね。例えば、不登校の児童は様々な原因があるので一口でこれは元気がないんだと心を開いて話し合える人がいないと解決につながらない、で、解決していかないと悲惨なことになってしまいます。ですので、この協議会では、報告だけでなく、問題を出して、その問題についてこの協議会で検討してほしいという提案をしていただきたいです。そのための会議じゃないんですか。とても大事な役割だと思います。それこそ協議会の在り方を改めて考えて頂きたいし、ソーシャルワーカーの設置についても検討していただきたいです。地域のこういう会議から出た意見を具体化してくれることが市の職員の仕事だと思います。虐待報告等子どもから続いて嫌なことを言いました。できましたら、ご回答をお願いしたいです。

牧里会長：そういう意見が出てきたと受け止めていきたいと思えます。重要なことをおっしゃったと思うんですけども、みなさんに聞きたいのですけれども、いろんな立場で参加していただいている。例えば、おっしゃったような小学校とか中学校にスクールソーシャルワーカーを置いてあればもっと医師会でも意識できるとか、小学校、中学校に関わってみようとか。当然これは地域全体のことも考えなければいけないし、推進協議会そのものの在り方ということにつながっておりますけれども、そこまでいわれて、もう中学校はややこしいから小学校だけでいいじゃないかという話もありましたけれどもそれぞれのみなさんにとってあんまり小学校中学校意識してもなにも変わらないという方もおられるでしょうし、どうなんでしょうね。

堺委員：ひとつは今日の報告でも認知症の予防の講習会の養成講座とか、他人事ではない。だんだん高齢化してくると忘れやすくなっておりますし、それが認知症になりやすくなるということ切り口から地域住民の互いの助け合いを広げていったらどうかということで社協の人的一生懸命やっているんです。こういう切り口が実行段階に移った時に、今の風潮としてはマンションとの個別、一戸建てということ区別なしに全体的に他人の生活に対して戸をたたいたり、おせっかいをしたりすることに対してずっと嫌ってきましたよね。芦屋でもひとつ、ふたつみつっちはいいマンションの事例はあるはずなんです。これを広めてくれるということが互助の地域づくりにつながるのではないかと、地域発信型ネットワークの事務局がそのような形に変更していかなければならないと思えます。

加納委員：やっぱり芦屋の規模だから、とてもやりやすいことで、他市ではできないだろうとおっしゃる。だからそこを大事に思えば小学校、中学校これが3000から4000世帯だと思うんですけどもここに育っているのがコミスクだし、そのコミスクが地域、地域によっては自治会が中心になっているところがあるかもしれないし、そこがリーダーシップを持っていけば、今よりはそれぞれ地域の良さを発揮してつながりができていくのではないかと、ただ一つの型にはめてやろうをすると人がなかなか動かないのではないかと。でも人を動かすその基盤というのが小学校区単位で、3000~4000の世帯だったら広報活動もやりやすいです。これは芦屋の良さだと思いますけどね。それがあからコミスクだって35年続いてきたとは感じます。

牧里会長：今、おっしゃっていただいたことは一般論ですけれども、小学校ということですね。だけど中学校区は全然意味がないのか、という私は意味があると思う。それは何かという地域活動をやっていく上で、さっきも言ったように社協の人が、もっと来てほしいとかあるいは保健師さんが来てほしいとか、だいたい中学校区はある程度そういう拠点が置きやすいんですよ。デイサービスセンターとか地域包括支援センターとかを設置すると、そこで行政職員や専門職なんかはそこに出向いていくんですね、その出向いていくところに地域の方々、リーダーの方々が集まって地域でつながる。例えばボランティアの人とつながってその地域の課題を共有してはっきり課題化する機能があれば、専門職と地域のボランティアの人たちが協議する。うまくそれができれば、中学校区が生きていくのではないかと思います。

長田委員：話を聞いていて、感じたことです。小学校区から中学校区の形が、うまくつながって流れていくのであれば議論にはなっていないと思います。だから小学校、中学校両方とも大事だと私は思います。だからみなさんはそうは思っていないはずですよ。効果的に上から何かを言われてやるのがそれだとまずいのではないかとというのがありましたね、住民主体というベースがあります。だからシステムとしてあるんだけどうまく回していくための機能をどうやったら充実できるのかというところが大事なのではないかと思います。それが今、ターゲットになっているのはわかりませんが、社協の方がそのようなコーディネートのスキルであるとかにつなぐのであれば、それが組織内でしっかりと抑えていかなくてはならないでしょう。私が気になったのは中学校の文章の中で精道中学校だけがネガティブ表現です。潮見と山手はポジティブ表現なんです。ポジティブであると住民主体としてはなかなかとっかかりづらいいと思います。今後、どういう形で住民主体を強化していくかが課題だと思います。だから小学校区、中学校区じゃなくて、現状でどううまくつなげていけるのかが本質的な課題であると考えます。

牧里会長：ありがとうございます。まず、住民が主体でポジティブに考えなければならない。質問ですけれども精道地区をまとめてくださったのは誰の報告ですか？もしかしらみなさんポジティブに変えてしまった人がいるかもしれません。住民の方はポジティブかもしれませんが、まとめた人がネガティブだったかもしれないですね。

事務局（宮平）：中学校区ということで考えると、例えば医療関係とかになってくるとやはり、小学校区というよりは少し中学校区の議論になるのかなと、また、先ほどの中学校区の所で障がいのある人と地域のつながりについては、全市で抱えている問題ではないかと思うのですが、それを解決するために専門職と住民との協働が必要になってくるのではないかと思います。規模で考えると、全市レベルよりは、中学校区レベルで、それぞれの地域で社会資源を活かした形で取り組むことも中学校区の役割であると考えています。

牧里会長：だれが主に取り組むのですか。

事務局（宮平）：専門職というのは、例えば高齢者生活支援センターや障がい者相談支援事業所も、行政の会議に参加しておりますし、医師会や歯科医師会の先生方にもご参加いただい

りますのでご意見をいただきながらどのような活動が続けていけるのか今度検討していきたいと思っております。

牧里会長：できれば生活支援コーディネーターを配置すれば、増員できますよ。その人が中学校区ごとに見回りをして課題を抽出して、専門職の人が集まって問題解決をしようとか住民のみなさんも小学校区の人も集まるとか、せつかく人口が 10 万人程度で動きやすいのに、西宮だったらできないかもしれないけれども、芦屋だったらできることがありますね。

仁木委員：今、僕が過激なこと言ったからたくさん議論が出てきて、嬉しくてしょうがないです。市民がこういう活動をしたいのに資源がないんだと、スクールソーシャルワーカーの話ではないんだけどもそういうものを提言していく、そういうようなプロセスだと認識していたのですが、そうではなかったら何回か出ているけれども単に報告会になっているので、それでは協議会の意味がないと思います。

牧里会長：つまり様々なパターンがあると、スクールソーシャルワーカーを置こうとか、例えば不登校とか家庭の苦情とか、中学校のほうがより深刻で、巡回でなく配置されることで、その人を対象に人が集まってくるし、問題をどうしましょうという解決につながりやすいんですね。そういうことをもっと考えていくべきではないかと、この中学校区のネットワークを使ってこれはここが課題ですよという仕組みで推進協議会を活用していくという意見が出ました。事務局は、いかがですか。

事務局（細井）：前回この会議があったときにいくつか宿題をいただいていたのが、実際その小学校区地域での会議がどのように運営されているのかということ、実践をどのように行われているかということに対して、実際に事例を出してほしいと言われたこと、それから中学校区の会議がどのようなことになっているのかということと、牧里先生がおっしゃる生活支援コーディネーターのお話あったんですけども芦屋市においては生活支援コーディネーターというよりも今、社協で実際に行っているコミュニティソーシャルワーク事業や新年度にはチラシをお配りしております生活困窮者支援についても始まりますので、その職員又は関わる関連事業の担当者の方をやっぱり効率的に、効果的に活動していただけるように市でバックアップしていかないといけないと思っています。現在、今予算化しているものをきちんと活用できるようにしたいと思っています。現在は、小学校区の会議体がかなりうまくまわりだしているのは事実です。今回心がけた内容として、小学校単位で会議をすると、その時に何をしたかという内容をニュースレターにして、次回につなぐようなツールをしっかり作ったということです。

10 ブロック全て作成しまして、一回何をしたか忘れないようにこれを配って、二回目ではこういう心構えで来てくださいな、ということを始めました。今年度、これは非常に大きかったと思っています。でも、振り返ると、この会議にもそのような流れが必要だったのかなと思います。今回、ネットワークを改編して何を目指していたかということ、やっぱり、各会議体のつなぎなおし、ということを中心としたんですね。変化のひとつは、このツールを作ってつなぎ直しができた。で、つなぎ直しができると次に何が起こるのかということと自分たちで活動しようということで、この「伊勢町だより」が出てくるんですね。それを見て、あいさつ運動をしようって言っているから、自分たちで、これを配って、これは別に社協じゃなくってこれは自主的にキャッチコピーをつくらうよって二十程度応募があったと聞いているので、こういう活動をまた小学校のブロックに戻すと、ちゃんとしているぞということがわかりますし、しかも、つなぎ直しという点につきましては、認知症サポーターの取組みは、今までになかった試みで小学校の福祉ブロック会議で企画しましたということで、ここに集まっている皆さんがコミスク、自治会、老人会、地区福祉委員会ですから、民生委員の方や福祉推進委員の方が集まりました。

要は並列に繋がり直したら何が起きるかということ、人が動き出すということがあって、これには 164 名も人が集まりましたんです。私たち行政の職員も 10 名ほどで伺いました。わかりやすい認知症の寸劇も劇団を住民の方が劇団を立ち上げられて、そこでも横につながって、みな

さんが活躍されていました。ですので、ようやく今、改編をして会議体のつなぎ直しができ始めて、それぞれの個別の活動が出てきたので、そういうことを効果的にご報告をするということを中心したいと思ひますし、小学校区から出てきた課題を中学校区でという話だったんですけども、小学校区は2巡目になったところなので、おそらく来年度にはそこから中学校区にあげるといふ課題が今までの活動を積み重ねると出てくると思ひています。

ですがまだ、中学校区と小学校区のつなぎのところが明確ではなく、小学校区がまだ途上でするので、次の会議にはそのつなぎの結果がどうだったかということが出てくると思ひます。

次に、中学校区ですけれども、なぜ中学校区かということでご議論をいただき、社会資源という点も非常に大きいのですが、特に潮見地区では、障害福祉課として認識している問題が障がいのある人とない人が一緒に集える場がなかなかないと、それは全市的に大きな課題だと認識しておりますということをおげかけて、潮見地区ではみどり地域生活支援センターもありますし、特別支援学校もあるので、潮見地区にしかない資源を使って障がいのある人とない人が関わりあえるイベントとかできないですかね、ということでお終っています。そうすると次の中学校区でそういうことがまた議題に上がってくるということになって、中学校区でやるんだとしたら、潮見にしかない資源なものですから、他の中学校区から参加される可能性もあります。きっとそういうことをつないでいく、そういう報告を次々できたらいいのだからと思ひています。ですから歩みは遅いかもしいないのですが、確実に参加された住民のアンケートの反応がよくなっています。集まって何を話するのが、よくわかるようになりましたとか、自分たちが実践をして、100何人もお客さんがきたらやっぱりやっておかしたと思ひますし、課題になっているマンションの取組みですが、最初は朝日ヶ丘のレッスクマンション、それから東山町のパークマンションが同じような取組みをして、今度打出浜地区でハイタウンも取組みを披露してらっしゃるんですね。このようにマンション単体で実践しているところでもきはじめているので、それを見た住民が自分の所のマンションの活動を発表されたり、事務局はそのコーディネーションはしておられますので、今やっとなつなぎ直しができ始めているところだということでご理解をいただけたらと思ひます。

牧里会長：ありがとうございます。歩みはのろいけれどもステージアップしているということですね。それから、さきほど仁木委員がおっしゃったソーシャルワーカーの議論はしましたよということはお理解いただきたいという風に思ひます。

波多野副会長：今の続きですけども、ここの場所ですクールソーシャルワーカーの話が出たということは、一度やっぱり、教育委員会にも実態把握なりして頂くということでお話をさせていただけたらと思ひます。

牧里会長：それでは地域ケアシステムの検討委員会について議題にいきたいと思ひます。

地域ケアシステムの検討委員会について
事務局より説明

牧里会長：ご意見がございませうか。

堺委員：これだけ1年、2年3年とかけていく中で、アンケートの内容も少しづつよくなっている、それをやっぱり待たなしの問題もあるわけですね。したがって今日は行政の方もおられますが、政治家の人はおられませんので、それで僕は芦屋市らしいいい意味の上から目線ではなく、下から芦屋を支えるような例えば、芦屋市にマンションを作る場合は必要最低限のしぼりを設けるとか、関心を持っておいてくださいよとか。全国に先駆けて芦屋でできないかという話です。そんなことは無理ですかね。

事務局(細井)：この会議体の良さってやっぱり住民主体の構図で作ったところがありますので、

私たちとしては、先ほどからやらされ感というか決まったフレームの中でやっているというのが窮屈で先ほど三条町も日常で実践しているから、ここのフレームでやる必要はないんだというようなお声があったので、それが本当だと思いますし、こういった声をきちんと吸い上げて仕組みにしていくのが私たちの業務だと思っていますので、そういう一定のしぼりで皆さんに動いていただくという考えは今のところはありません。

牧里会長：この推進協議会というのは条例設置というわけではないんですよね。

事務局（長岡）：要綱設置ですね。

仁木委員：本来福祉の畑で働いていますよという議員さんは来るべきですよ。

牧里会長：でも要綱設置だったら別に傍聴に来ていただくことはできますね。

仁木委員：ここの会議が設置されたときに、その問題をたらいまわしにするんじゃなくてチームで解決するようなネットワークを作りたいということを、この会議の最初のお話だったと記憶しています。要は小学校区のチームが専門家を入れてサポートしていく。その時に事例検討したり、事例報告したりするときに当然守秘義務が課せられてくると思う。それはどうなっているのですか。

堺委員：森川先生、高齢者虐待の法律ができて、障がいの方にもありますよね。

森川委員：高齢者虐待の場合は、虐待防止法がありますので、そういった点からやりやすくはありますけど。

仁木委員：個人情報の問い合わせとか難しいので、やっぱり、窓口になった方がそのことは周知しないと扱いつらいですよ。

牧里会長：その他ご提案ご意見ありませんか。

長田委員：地域包括支援センター運営協議会にも関わっているんですけども、システムは形とそれから機能といいますか、人がどれだけリーダーシップを取れるかとどこまでできるかというそれにかかってくると思うんです。そうしたらこのシステムを動かそうと思ったら、その、ベースになるのが、例えば行政なんかで言ったら、人が変わったらそれまでバリバリしていたのに、まったく話を聞かなくなったなどそうなった地域も何か所も知っているんですけども、それがあってはいけなかなと、人が変わるというのは必然的なことなんですけども、何が大事かと言ったら変わる前に人材の育成のシステムといいますか、しっかりと組織や団体の中で次を継げる状況をしっかり作っておかなければ、このネットワークの発展継続もないのではないかという思いにあります。この人が抜けたらどうするんだという問題を抱えている課題だと思うんですけども、それは各組織、団体の中で、そういうような視点を持ちながら、しっかりと次につなげられるような状況を作っていく体制というのが本来ベースになっているのかなという気がしますね。

牧里会長：このケアシステムの要綱はありますか。

事務局（細井）：社会福祉協議会が、要領を作っておられます。

長田委員：地域包括支援センターでは、基幹的業務担当が中心となって分野を超えて、障がい分野で働く現場の実践者などに対して呼びかけて、専門職としての対人援助の土台を築く支援を

しているんです、それと同時に地域包括支援センターではスーパーバイザーという役割が設けられていて、もう4年になるんですけどもそれぞれの組織で、支援者を支援していくための仕組みができています。そのような取り組みが、次をしっかりと継げるような育成につながっていくので、それが全体的に結びついて、広がれば良いと考えています。

加納委員：スーパーバイザーは社会福祉協議会ががんばってますね。

牧里会長：社協の人たちをサポートする、アドバイスするような仕組みについて、この会議体で検討は難しいですが、地域ケアシステムの中身はアドバイスするとかリーダーとかリーダー格になる人の育成についてはどうですか。

事務局（宮平）：やはりリーダーになれる方がおられて、うまく引っ張ってくれて、活動ができているという部分はあるのかなと思います。

牧里会長：地域のリーダーっていうのは例えば、ゴミ屋敷のおばあちゃんがいたと、自治会もなんとかしてくれと言っている。臭いから追い出せという話になっている、いや、それは一人の住民だからなんとかしないといけないとそういう人は苦しんでいると、自治会からのプレッシャーもあるし、その人のことも考えたら、まず、家をきれいにしてあげること、その人が今後1から人生をやりなおすように考えないといけない、でも一人じゃできないから福祉事務所に行くのか保健所に行くのか、動き始めると、ゴミ屋敷だったら認知症のことも考えないといけないし、ここからは弁護士さんを含めて、地域包括支援センターと一緒に解決しましょうとなれば良いですね。

事務局（宮平）：ソーシャルワーカーについては、3人が地域担当ということで、各地区で生かしていただいておりますので、そこから相談いただければ関連機関と相談させていただくという形で取り組みはさせていただきます。

事務局（細井）：コーディネートの機能というのが個人にもたれかかるということではなくて、このネットワークのシステム上では地域ケアシステム検討委員会でそういう部分を担っているというのがありますので、じゃあ、具体的にそのコーディネーションというのがどこで表れているのかというのかといいますと、今日説明させていただきました26年度の年2回小地域福祉ブロック会議の開催一覧という所で地域の会議に地域ケアシステム検討委員会の委員が出向いて行っているというところで名前が出ています。地域ケアシステムの検討委員会の委員が、ちゃんと現場に行って、どんな議論を市民がお話しているかを吸い上げて、それを持ってきて、地域ケアシステム検討委員会で共有をするような仕組みをやっと今年度実践できているんです。事務局だから社会福祉協議会の職員だけが担うのではなく、人が変わったらそれでおしまいではなく、委員会の中で、コーディネーション機能が少しずつ発揮されるようには仕組みを作ってきているので、今後もまた実践していこうと思っています。

事務局（長岡）：もう時間が迫っているので、資料配布させていただいておりますので、お目通ししていただいて、また疑問点等ございましたら事務局のほうにお知らせいただくということでしょうか。

牧里会長：では簡単に記載されていること以外でご報告をお願いします。

介護保険課（奥村）：高齢者生活支援センターとこの協議会の関係で申し上げますと、高齢者生活支援センターが事務局を務めます地域ケア会議が、国が進めている地域包括ケアの重要な要素です。これを中学校に位置づけまして個別ケースの検討とまた地域の普遍的な課題も抽出するという役割がありますが、まだ始めたところですので、会議の開催数があまりございません

ので、今回は具体的な事例についてのご説明は省略させていただきます。

障害福祉課（川口）：自立支援協議会を年 2 回開催しておりまして、第 2 回目は来週開催する予定です。今年度、障がい者基幹相談支援センターを設置しておりまして、地域の相談支援機能の強化であるとか支援者の支援といった取り組みを行っていますので、それらについて自立支援協議会で評価しており、地域で、障がいに対しての理解を深めていただき、障がいのある方が、地域で自分らしく暮らすための支援者のネットワーク形成を期待しております。

地域福祉課（吉川）：権利擁護支援システム推進委員会、は今年度、高齢者の計画と障がい者の計画の 2 本の計画の策定がございまして、その中でやはり、権利擁護が重要な項目であると考えておりましたので、権利擁護に関わる部分に付きまして、計画との整合性等の報告をさせていただきます、委員のみなさまの意見の反映を目的に開催させていただきました。以上です。

こども課（西岡）：要保護児童対策地域協議会ですが、第 1 回の代表者会議のあと、実務者会議、全機関集まるとの会議を 3 回、それ以外に、主要機関の実務者会議ということで、合計 4 回と、研修会としまして、11 月が児童虐待防止推進月間なので、この時にキャンペーンと合わせて、この機関の関係者プラス地域の子育て支援者を集めて実施しております。芦屋市での要保護児童協議会は、来年で満 10 年を迎えます。平成 12 年に児童虐待防止法ができて、当時虐待相談件数が 11,000 件あまりだったのですが、昨年は 73,900 件ということで、6.5 倍くらい増えています。さきほどお話ありましたが不登校の子どもたちが増えてきたとか、そういう子が学校を卒業しても、若い引きこもりが増えていくということにつながっていくということで大変問題になっています。スクールソーシャルワーカーですが、芦屋には現在配置されていません。その役割をはたしているのが子ども課の相談になります。芦屋市でもソーシャルワーカーの配置がなされれば、もっと手厚い取り組みができるのではないかとつい先日の実務者会議でも議論されていたところです。

牧里会長：事務局から何かございますか。

事務局（長岡）：本日は貴重なご意見ありがとうございました。次回ですが、地域発信型ネットワークの充実につきましては、重要なことだと考えております。27 年度から始まります新たな計画にも位置づけておりますので、次回の協議会におきましても進捗状況について報告もさせていただきますが、合わせて協議していただく役割も意識して開催したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

牧里会長：それでは閉会といたします。熱心に議論いただきありがとうございました。